



チュニジア

39 南部地域上下水道整備事業

A
B
C
D

チュニジア南部の観光地であるジェルバ、ザルジス等において上下水道施設を整備することにより、生活用水の供給および生活・産業排水の処理を図り、もって同地区住民の生活・衛生環境の改善および観光産業の振興に寄与する。

承諾額/実行額	75億7,700万円/60億5,300万円
借款契約調印	1995年3月
借款契約条件	金利3.0%、返済25年(うち据置7年)、一般アンタイト
貸付完了	2002年12月
実施機関	水資源開発公社および下水道整備公社



外部評価者 宮崎慶司(オーバース・プロジェクト・マネージメント・コンサルタンツ(株))
現地調査 2004年9月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに淡水化プラントや下水処理場等が整備された。期間は、工事の再入札や下水処理場建設にかかわる入札評価等に時間を要したため計画を大幅に上回ったが、事業費は計画を下回った。

本事業により、上水道事業対象地(ジェルバ、ザルジス、ベンゲルデン、メドウニン、タタウィン)の給水人口は合計で約12万人増加し、水道普及率の平均は事業実施前の約80%から約90%へと改善している。下水道事業対象地(ジェルバ東部の観光地域)の汚水処理人口は約8,000人増加し、下水道普及率は事業実施前の約13%から約27%へと改善している^{※1}。

受益者調査(対象166世帯)では、約74%が「本事業により給水量は十分またはほぼ十分になった」と回答したが、本事業では給水量確保のため、塩分濃度の高い井戸水を淡水化処理して井戸水に混ぜて供給しているところもあり、約52%はその味に満足していない。一方、本事業による直接的な因果関係は検証できなかったが、ジェルバ、ザ

ルジスの1歳未満乳児死亡率(1,000人あたり)は1995年の26.2人から2004年には9.7人に改善している^{※2}。またジェルバ、ザルジスのホテル数およびベッド数は01年の144軒、4万5,307床から03年には151軒、4万9,317床へと増加している。

水資源開発公社、下水道整備公社ともに技術、体制面に問題はない。両公社の収益状況は厳しいものの、自己資本率は高い。

※1 汚水処理人口および下水道普及率は対象地の居住者のみをベースに算出されており、ホテルに滞在する観光客を含めると本事業の効果はより大きなものとなる。
※2 チュニジアにおける03年の1歳未満乳児死亡率(出生1,000人あたり)は19人。

第三者意見

本事業は、統合的水資源管理の一環であり、チュニジアの経済・環境にとってきわめて重要な水資源セクターにおいて、財政・技術支援を組み合わせた日本が援助をリードしていることを嬉しく思う。

有識者 Mr. Nouredine Mejdoub (公的部門)

パリ第一大学博士(政治学)。元国連大使。現在、チュニジア友好協会会長。元駐日、駐米チュニジア大使。専門は外交。

本事業による効果●給水人口、汚水処理人口の推移

給水人口の推移

—ジェルバ —ザルジス —ベンゲルデン —メドウニン —タタウィン (人)



汚水処理人口の推移

●●●汚水処理人口 (人)

